

[067_04/05] 経済学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4360759>

出版情報：経済学研究. 67 (4/5), 2001-05-31. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：



序

矢田俊文教授は、2001年2月6日にめでたく還暦を迎えられた。九州大学経済学会は心から祝意を表し、ここに記念論文集を刊行する。

矢田俊文教授は、1964年3月東京大学教養学部教養学科人文地理分科を御卒業ののち、東京大学大学院理学系研究科地理学専攻課程に進学され、1970年3月に同大学院博士課程を修了、翌年に理学博士号を取得されている。大学院終了後、法政大学経済学部助手、同大学講師、助教授、教授を歴任ののち、1982年4月に九州大学経済学部経済工学科教授に就任された。現在は、九州大学大学院経済学研究院産業・企業システム部門（産業システム講座）の教授である。

矢田俊文教授は、単著5冊、編著10冊、さらに100編以上の論文と同じく100編以上の評論を公表されてきた。教授の教育・研究は、多岐にわたっているが、大別すれば石炭産業を中心とするエネルギー産業についての研究、経済地理学の理論的体系化（地域構造論の構築）、国土計画・地域開発についての戦略論の3つに分けることができる。

石炭産業に関する研究は、エネルギー革命が進行するなかで、日本の石炭産業が崩壊していく過程を地代論の観点から丁寧に実証研究したものであり、いまでも石炭産業研究の主要参考文献として取り上げられている。経済地理学の理論的体系化は、アメリカ、ヨーロッパで始まった経済地理学における地誌学至上主義に対する批判の日本における独自の批判体系の構築であり、矢田教授の体系は、「地域構造論」と呼ばれており、多くの研究者が矢田教授の体系に基づいて理論的・実証的研究を行なっている。政策面では、国土審議会、産業構造審議会、経済審議会、石炭鉱業審議会などの多くの審議会、委員会に参加され、国、地方自治体の政策指導にあたられると同時に、国土計画についての体系的専門書についても2冊出版されている。とくに、国土審議会で矢田教授が提唱された地域連携軸構想は、戦後5番目の全国総合開発計画の主要施策の一つとして取り上げられている。

矢田教授は、学会活動にも積極的に関与され、2000年4月からは、経済地理学会の会長、産業学会の会長に就任されている。学内においても、石炭資料研究センター長、九州大学評議員、九州大学総長特別補佐を歴任され、1997年4月からは九州大学副学長に就任され、九州大学の改革、キャンパス移転を担当されている。学部生、大学院生の教育にもご尽力され、20名を超える研究者を社会に送り出され、九州大学および経済学研究院の発展に大きく貢献されている。

矢田教授は一時過労のため、体調をくずされたこともあったが、現在は健康を回復され、還暦を迎えられた今、ますます学問、教育、学内行政、学会、社会的活動にお忙しい毎日を過ごされている。このたび矢田教授と関係の深い、外部の先生方5名、および経済学研究院の同僚の寄稿を得て、矢田俊文教授還暦記念論文集を献呈できることは、まことに慶ばしいかぎりである。矢田教授の一層のご健康を祈念するとともに、今後ますますのご活躍を期待する次第である。

2001年2月

九州大学経済学会長 徳 永 正 二 郎